

# 図書館だより



京都市立九条中学校

図書館

令和7年度 第7号

## 秋の夜長に ミステリー

定期テストを終えて、ほっと一息ついているところですね。緊張した頭と心をほぐす読書はいかがですか？

今月の図書館内の展示コーナーは『秋の夜長にミステリー』と題し、国内外の推理小説を並べています。



ミステリー小説は「なぜ?!」「えっ?!」「だまされた!」「そうきたか！」と心を揺さぶられ、読み始めると途中でやめられません。伏線が回収され、謎が解明したときのすっきり感が爽快で、達成感すら覚えます。

ミステリー小説を読むことで、思わぬ効用もあります。謎を追ううちに集中力がつき、論理的な思考力や読解力も鍛えられます。登場人物の感情を追体験することで、他者への理解力や共感力も高まります。

世の中にはさまざまな動画がたくさん出回っていますが、流れてくるものを眺めて楽しませてもらうだけでなく、自分からじっくりと読み味わう「読書体験」をしてほしいと思います！

### 【図書館からのおすすめミステリー】

文庫本にしばりました



#### ● 渡かなえ 「往復書簡」 幻冬舎

小学校時代の恩師の依頼によって、過去の事件と向き合うことになった主人公は高校の教師。手紙のやり取りでその真相が明かされる！

#### ● 宮部みゆき 「魔術はささやく」 新潮社

無関係に見える三つの死の謎を解く、逮捕された容疑者の甥である高校生の守。（宮部さんの描く少年はいつも魅力的です。）かなり前の作品ですが、日本推理サスペンス大賞を受賞しています。

### ●東野圭吾 「天使の耳」 講談社

交通事故が原因で運命が急転する。5つのお話の連作ミステリー。



### ●相沢沙呼、青柳碧人、秋木 真、似鳥 鶴

#### 「ブラックボックス、誰が解く？」 KADOKAWA

どんなミステリーを読めばよいのかわからない人にぴったりの1冊。人気作家4名が描く短編集。

各話の扉に書かれたガイド（どう読めば面白いのか？）と共に楽しめます。



### ●米澤穂信 「本と鍵の季節」 集英社

次郎と詩門は、高校2年生の図書委員。開かずの金庫、テスト問題の窃盗、亡くなった先輩の読んだ本…数々の謎に挑む青春図書館ミステリー。

### ●伊坂幸太郎 「死神の浮力」 文藝春秋

小学生の娘を殺された夫婦は、死神と行動を共にすることになった。飄とした死神と危険な復讐を企てる夫婦はどうなっていくのでしょうか。



Q&Aで紹介します

Q1:好きな作家と作品は？→ A: 東野圭吾 「ある閉ざされた雪の山荘で」

Q2:図書館の本のなかでおすすめしたい作品は？→ A: 「アルジャーノンに花束を」

Q3:本にまつわるエピソード→ A: 先輩から教えてもらった本がきっかけで小説を読むようになりました。

Q4:どのような図書館にしていきたいか？→ A: 静かで快適な図書館にしたいです。

Q5:九条中学校のみんなに一言→ A: 文字だけの本もそれなりに楽しいから、小説をみんなもっと読んでみてね！

1年生のときからずっと、教養委員会で活躍する姿がありました。これからは委員長として、リーダーシップを発揮してくれることでしょう。

活発な活動や図書館の適正な運用ができる教養委員会にしたいですね！



### +++冬の特別貸出のおしらせ+++

2025/12/1 (月) より

最終返済日 2026/1/8 (木)

昼休み 図書館にて

1人 5冊まで 『未返却本があると借りられません』